

教育活動

■ 各校務分掌より ■

教務部

教務部では、学校教育目標の達成を目指し、年間教育・行事計画を立案し、教育計画の円滑な推進を補佐し、学校全体として有機的に連携し、教育効果が上がるよう努めています。また、学習計画・行事計画の達成のため、各分掌・各学年・各教科と協議し調整にも努めています。開校初年の平成15年度は国数英70分授業・他教科50分授業でスタートをきり、平成17年度より全教科60分授業、平成25年度より55分授業、平成29年度より現在まで50分授業と変遷し、放課後学習・放課後講座の時間や8月上旬には補習・探究学習重点期間を設け、学習時間を確保してきました。主な業務内容は次のとおりです。

①年間・月間教育計画の調整・立案など行事に関わる内容、②通常時間割、特別時間割、定期考査時間割等の作成、チャイム管理、放課後講座の管理、早朝基礎テストの運営など時間割に関わる内容、③放課後学習の集約、全国学力・学習状況調査の実施、生徒への学習習慣定着と学習意欲の醸成など学習に関わる内容、④授業公開期間など教員の研修に関わる内容、⑤教育課程編成のための各教科間との調整、選択科目調査の実施、新クラス編成、教科書採択事務、教材に関する手続きなど教育課程に関わる内容、⑥出席簿、生徒指導要録、職員会議録等の作成・管理、各種証明書の発行準備、成績会議・単位認定に係る事務など学籍等に関わる内容、⑦教務規程、成績処理システムの作成・調整・管理、通知票の作成、成績優秀者表彰に係る事務、追認考査の企画・立案など成績処理に関わる内容、⑧その他、新入生・後期課程オリエンテーションの企画・立案、教育実習に係る事務、講師との連絡・調整、生徒の異動に係る事務、奨学金に係る事務、入学説明会の企画・立案、教材・教具・用紙等の準備、始業式・終業式等の企画・立案など

コロナ禍においては、本校は速やかにオンライン学習に対応し、現在でも在宅学習時に生かされています。今後引き続き、生徒一人一台端末のタブレットやICT機器の活用方法、デジタル教材の活用やオンライン学習の実施のあり方を検討する必要があります。また、今後も、本校の特色を生かしての更なる発展と中高一貫教育の充実の実現に努めていかなければならないと考えています。

生徒部

生徒部では、教育方針の「礼節を重んじる心豊かな品位のある生徒の育成」を目標に、生徒一人ひとりの心を育て、それぞれの人格のよりよき発達を目指した積極的な生徒指導に努めています。

主な活動は、生徒の安全確保のため、毎朝の校門前や近隣交差点での立哨指導及び放課後学習の日の下校指導を行っています。月始めの全校集会において身だしなみチェックも実施しています。

また、生徒の内面的なケアやフォローとして、担任による定期的な面談やこころと生活等に関するアンケートを実施。スクールカウンセラーも配置（毎週火曜日）されました。

さらに令和3年度には、1人1台所持するタブレット端末の保管や、近年の教材の大型化等に対応するため、鍵付き大型ロッカーを導入しました。

校則の見直しにおいては、特に制服に関して、天候や各自の体調に合わせた着こなしができるように変更したり、学校指定以外の防寒着（マフラーやひざ掛け）の使用を認めたりといろいろと変化させています。

今後も、めまぐるしく変化する社会や気候に迅速かつ柔軟に対応できるように取り組んでいきます。

平成26年度	平成27年度
保護者・教員対象スマホ安全教室（NTTドコモ） 生徒対象 スマホ安全教室（奈良コンソーシアム） 自転車安全点検	スマホ安全教室（電子自治体アドバイザークラブ） 自転車安全講習（全校集会）・自転車安全点検 VPA活動（教員7名・育友会5名）
平成28年度	平成29年度
スマホ安全教室（電子自治体アドバイザークラブ） 自転車安全点検 VPA活動（教員9名・育友会6名）	スマホ安全教室（石川千明氏） 自転車安全教室（JAF）・自転車安全点検 VPA活動（教員8名・育友会7名）
平成30年度	平成31年度・令和元年度
スマホ安全教室（LINE株式会社） 自転車安全教室（JAF）・自転車安全点検 VPA活動（教員9名・育友会7名）	スマホ安全教室（NTTドコモ） 自転車安全講習（全校集会）・自転車安全点検 VPA活動（教員8名・育友会5名）
令和2年度	令和3年度
VPA活動（コロナにより教員8名のみ） 自転車安全点検	スマホ安全教室（反差別・人権研究所 中村尚生氏） 自転車安全点検 VPA活動（コロナ禍により中止）
令和4年度	
スマホ安全教室（法務局人権擁護委員会・NTTドコモ） 自転車安全教室（全校集会）・自転車安全点検 VPA活動（教員9名・育友会9名）	

進路指導部

本校の特徴である少人数制で完全6年一貫教育を活かし、生徒に寄り添い、生徒、保護者、学校が三位一体となって指導を進めることが進路指導部の方針です。加えて、「学力向上」「キャリアデザインの確立」「ジェネリックスキルの育成」の3本柱で生徒の希望進路実現をサポートしてきました。「学力向上」に関わって、5年生の放課後を利用して受験を意識した各教科の講座に加え、ロングホームルームの時間を利用した志望理由書講座を実施しました。また6年生では、直前に控えた大学受験に対する放課後講座と夏期講習、直前講習などを実施してきました。特に、受験直前期には生徒の進学先が決まるまでほぼ一对一の個別指導にこだわりました。その上で、開校当初より、国公立大、有名私立大合格者数の合計が全体の3割を超えることを目標として掲げ、14期生までは、京都大学をはじめとする旧帝大の合格者を含めて毎年目標を達成しました。また15期生では国公立大への合格者が、開校以来となる全体の約5割超えを実現できました。また、「キャリアデザインの確立」に関わって進路に対する意識を高めるため、後期課程の生徒と保護者を対象とした進路説明会を年1回実施し、進路実現の方法や最新の入試情報などを伝えてきました。さらに、「ジェネリックスキルの育成」に関わってキャリア教育推進委員会との連携を密にし、教科学習で得た知識を活用し自らで表現する取り組みを進めてきました。そこで、前期課程では河合塾「学びミライPASS Jr.」を、後期課程では河合塾「学びミライPASS」などを活用して、そういった見えにくい力を測定することで視野を広げ適切な助言ができるようにしてきました。また、近年の入試で必要となる小論文や志望理由書などにも注目し、必要となる論理的な文章を書けるようにするための「クリティカル・シンキング講座」も実施しています。

これからの進路指導としては、激動していく時代に対して、一人ひとりの生徒の意欲や努力を重視し、生徒自らの意志と責任で選択した進路を堂々と進んでいけるような能力・態度を育て、生徒の将来における自己実現を応援する姿勢でもって指導にあたっていきたいと考えています。

この10年の主な大学合格実績の推移〈既卒生も含む〉

(1) 国公立大学

	H 25	H 26	H 27	H 28	H 29	H 30	H 31	R 1	R 2	R 3	R 4
京都大		1	1	4	1	2	2	2	2		
大阪大	2	2	2		4		2				1
神戸大	1	2	4	2				2	1	1	
北海道大					1						
東北大	1					1					
筑波大					1(1)	1					
東京外国語大										1	
一橋大					1						
東京学芸大		1									
千葉大			1								
山梨大						1					
宇都宮大						1					
信州大		1	1	1		1					
金沢大						1	1	1			
福井大					1	1					1
富山大		1			2			1			
静岡大	1							1	1	1	
岐阜大			1								
名古屋大	1	1		1							
名古屋工業大					1						
豊橋技術科学大			1		1						
三重大	1		1				1				1
滋賀大			1							1	
京都工芸繊維大						1				1	
大阪教育大											1
奈良教育大		2	2	2		1				3	
奈良女子大		1		1	1			1	1		
和歌山大	2				1	1	1				
岡山大					1		1			1	
鳥取大	2	2									1

() は医学部医学科

	H 25	H 26	H 27	H 28	H 29	H 30	H 31	R 1	R 2	R 3	R 4
広島大	2	1	1	1	1						
山口大		3		2	2			1			
徳島大			1	1			1	1			
愛媛大				1							
高知大	1				1						
九州大						1					
長崎大					1						
鹿児島大											1
琉球大	1					1					
公立はこだて未来大						1	1				
国際教養大				1	3					1	
福島県立医科大								1(1)			
横浜国立大				1							
静岡県立大				1							
愛知県立大	1										
名古屋市立大			1								
三重県立看護大											1
滋賀県立大		1									
京都府立大							1				
大阪公立大											2
大阪市立大	4		1	1	1		1	3			
大阪府立大	2	1	2	1	1	2		1			
神戸市外国語大	1		1			1					1
兵庫県立大	1		2				1	1			1
奈良県立医科大	3	1	3(1)	2		1	2(1)	3			
奈良県立大							1				1
岡山県立大							1				
高知工科大										1	
公立鳥取環境大								1			
その他	2	7	5			2					

(2) 医学部医学科

	H 25	H 26	H 27	H 28	H 29	H 30	H 31	R 1	R 2	R 3	R 4
自治医科大			1								
聖マリアンナ医科大				1							
帝京大		1									
杏林大								1			
埼玉医科大				1							
金沢医科大	1								1		
愛知医科大										1	
近畿大											1
川崎医科大			1					1	2	2	
兵庫医科大			1						1	1	
福岡大				1							
久留米大				1							1
ハンガリー医科大										1	

(3) 文部科学省所管外大学校

	H 25	H 26	H 27	H 28	H 29	H 30	H 31	R 1	R 2	R 3	R 4
防衛医科大学校		1(1)		1(1)		1					
防衛大学校	13	12	10	4	11	4	1	2	5	3	

() は医学部医学科

文化図書部

【文化的行事】

新入生歓迎会

例年4月に実施する新入生歓迎行事。前期課程生徒の参加を中心に、放送委員会の司会のもと、各部の代表が趣向を凝らしながら活動内容を新入生に紹介します。

聖華祭（文化祭）

例年10月中旬から下旬の土・日に開催。日曜には奈良芸術短期大学や橿原学院高校を含め、聖心学園グループ全体が各祭りで大いに盛り上がりを見せています。なお、聖華祭前日には実行委員企画で前夜祭も開催します。

聖華祭の内容は演示部門と展示部門での発表、合唱コンクール、後期課程生徒による模擬店運営、有志生徒による発表、育友会バザーなどがあります。

なお、コロナ禍では、映像発表などを中心に規模を縮小するなどして開催にこぎつけました。

百人一首カルタ大会

例年新春恒例の行事。前期課程と後期課程に分かれ、源平合戦型式・クラス対抗戦で優勝を争います。前年暮れから各クラスが密かに練習を重ねる風景が見られました。

コロナ禍では中止を余儀なくされました。

6年生を送る会（つどい）

例年2月に実行委員会企画で実施。卒業を目前にした6年生に部活動や行事でお世話になったことへの感謝の気持ちを表し、思い出に浸りながらつかの間の楽しい時間を過ごしてもらうという主旨の会（つどい）です。

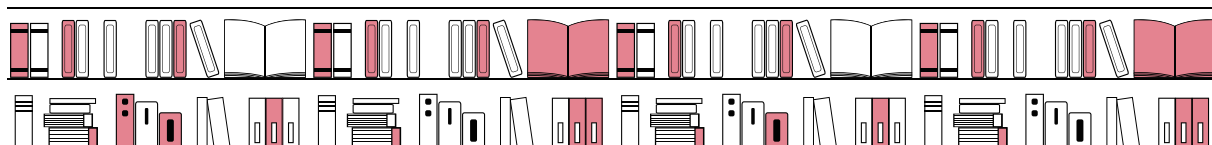
『聖和の風』作成

例年2月に、教職員による卒業生向け激励文集を作成し贈呈しています。“聖和の風”というタイトルには、「聖心ファミリーの一人ひとりがこの大和の地で和（輪）になって、これからも良き伝統が続いていくように新しい風を吹かせたい」という思いを込めています。

【図書室利用・読書推進活動】

図書室は、昼の休憩時間のみの開館のため、本や読書に関心の高い生徒に利用が限定されている感がありましたが、新刊書や学習漫画を積極的に取り入れることによって徐々に来館者が増えてきています。

その他、生徒の読書推進に向けては、「読書タイム」と称し、週3回、朝20分間、本に親しむ時間を設けたり、ポスター・チラシ等の掲示により読書啓発に努めています。



保体美化部

• 保健関係

生徒自身が生涯にわたり心身ともに健やかで健康的な生活を営むことができることをねらいとして活動を行っています。具体的には検診を通じて疾病、疾患の早期発見の重要性の認識、新体力テストや体育大会を通じて健康管理・体力増進の重要性の認識、AEDを用いた救急救命の知識や技能の習得などです。

また、保健の授業は言うまでもなく、「保健だより」や養護教諭との個別相談等を通じて、規則正しい生活やバランスのとれた食事の大切さなど、健康増進に関心を持ち、健康的な生活を送るためのセルフマネジメントについても伝えています。

• 体育関係

体育大会は、第3回大会より橿原公苑陸上競技場にて開催していますが、コロナ禍のため、中止や規模縮小の年度がありました。

競技形式は、数年前からクラス対抗形式を残しつつ、中高一貫校の特色を活かし全体を紅白の2組に分けて得点を競うなど、先輩後輩のたての繋がりも大切にしています。

これからも、思い出に残る大会が運営できるよう、創意工夫を凝らしていきたいと考えます。

• 美化関係

美化部門では、校舎内外の環境美化と、環境保持を図っています。校内美化としては、毎日の清掃活動に加え、月1回「安全点検の日」を設け、各クラスの環境美化委員が清掃用具や物品の破損などがないか点検しています。

また、校門前に花のプランターを設置し、年2回環境美化委員を中心に植え替え作業を行っています。さらに、年1回、年の瀬に地域のボランティア組織の方々と橿原神宮のボランティア清掃を行っています。

入試広報室

入試広報室の役割は「本校の入試情報の提供」「本校の魅力の紹介」「本校説明会の開催」「受験生のサポート」等を通じて、受験生や保護者に本校の正確な情報を伝え、本校と受験生・保護者の相互理解と信頼を築くことです。こうした目的のために、入試広報に関わる各教員や管理職は本校の価値や使命、つまり「存在意義」を十分に理解し、時に校内の先生方や在校生にも丁寧に伝えていく必要があります。この10年間の奈良県内の中学受験の推移を見ていると、少子化が進み、六年制の公立学校が複数校開校されるなど、多くの私立中学校・高等学校がますます生徒募集の中で、「発信できる学校の魅力づくり」に注力しなければならなくなっています。本校も教職員が一丸となって、学校の魅力づくりとその発信の両輪を回し続けなければならないことは言うまでもありません。

本校のような私立学校が誰のために存在するのかを考えたとき、本校で多くの思い出を作った卒業生、本校に期待を寄せて入学してくれた在校生のために存在するということは間違いなく答えの一つです。建学の精神である「豊かな特性と広く深い学識を持ち、世界的視野に立つ心身共に明るく健康的な紳士・淑女を養成する」、校訓である「礼節・誠実・勇氣・創造」を身に付けて本校を旅立ち社会の一員になっていく生徒のためにも、次の10年、50年、100年と続く学校のための入試広報であるべきだと考えます。

■ 各委員会より ■

人権教育委員会

開校以来、本校の人権教育は、生徒誰一人として「いじめ」による生きづらさを感じることなく、自己肯定感をいただき、明るい学校生活を送ることを目標に、教員は教育活動のあらゆる場面で人権尊重の精神の有無を確認し、障害者問題、部落問題、在日外国人問題、異文化理解、平和学習など様々な人権課題を学習する機会を設けてきました。そして個々の希望の進路が叶い、将来的には正しい人権知識や感覚をもち合わせた人間として社会に送り出すことを目標として取り組んできました。

人権にまつわる課題は実に様々で、近頃では「暮らしと環境」の問題、「多様な性」、「ネット差別」、さらに「ヤングケアラー」も憂慮すべき問題となりました。平和を脅かす東欧、中東、日本の近隣諸国の動向も気がかりです。

令和2年初頭には新型コロナの問題が発生しました。生徒は当初在宅学習やリモート授業を強いられ、その後は修学旅行、体育大会など主行事が中止や延期、内容縮小等を余儀なくされました。令和2年度に本校が担当予定であった「高人数公開ホームルーム研修会」も早々に延期となり、翌年度、予め録画した模様を他会場にて視聴する変則的实施となりました（※この研修会では当時の第5学年担当教員が「職業観」をテーマに発表）。コロナ禍は「すべての人々が生命と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する」という人権の大きな理念を著しく脅かすものでした。

このように振り返ってみても人権の課題や学びに限りや終わりはありません。これからも、個々の違いを豊かさにとらえ、相互の個性、多様性、少数者の考えなどを尊重しあえる共生社会の一翼を担うべく、実りある人権教育に取り組んでいきたいと考えます。

❖この10年でみる高人数人権作文集 『ひとりひとりの願いを』 への応募作品の変遷

第53集掲載（平成25年夏執筆）	「言葉の力」 中川華緒
第54集 “（平成26年 “）	「祖母の病を通して気づくこと」 栗原麻実
第55集 “（平成27年 “）	「私たちが考える大切なこと」 谷口聖菜
第56集 “（平成28年 “）	「言葉と行動～人工知能から学ぶ～」 寺井孝則
第57集 “（平成29年 “）	「LGBTについて」 植村友絵
第58集 “（平成30年 “）	「私たちにできること」 宗重美結
第59集 “（令和元年 “）	「戦争を忘れないために」 畔岡亜衣
第60集 “（令和2年 “）	「その言葉、正しいだろうか」 小久保美希
第61集 “（令和3年 “）	「ヤングケアラーについて」 竹田 心
第62集 “（令和4年 “）	「ジェンダーロール」 大上あい

❖この10年でみる全国中学生人権作文コンテスト（奈良県大会）の入賞者の変遷

平成25年度	第33回大会	奈良県人権擁護委員連合会会長賞	「いじめ問題について」 川本千夏
平成26年度	第34回 “	奈良県教育委員会教育長賞	「母の言葉」 伊藤 実希
		奨励賞	「障がいのある妹と暮らして」 栢田 滯苑
平成27年度	第35回 “	奨励賞	「得られるもの」 植村 友絵
平成28年度	第36回 “	奨励賞	「言葉の重み」 山下 夏季
平成29年度	第37回 “	奨励賞	「スマイルリーダー」 松本 祥穂
平成30年度	第38回 “	奈良テレビ放送賞	「人種差別」 赤池 希優
令和3年度	第40回 “	奨励賞	「友人の告白」 西田 紫音



人権作文入賞表彰式



人権公開ホームルーム研修会



人権講演会

渉外委員会

本校育友会「聖親会」は、生徒の健全な育成をはかるため、建学の精神にのっとり、家庭・学校及び地域社会との関係を緊密にして、本校教育の推進に協力することを目的に運営され、本校に在籍する生徒の保護者をもって構成しています。役員として会長1名、副会長3名以内、書記1名、会計1名、監事2名と顧問（学校長及び本会の功労者）を置くとともに、学年委員会・美化委員会・広報委員会を常任委員会として設置し、実行委員は各学級から候補者を選抜して会長が委嘱しています。

コロナ禍以前の主な活動は次のとおりです。5月中旬に育友会総会を開催し、新旧役員・実行委員の引継ぎや新年度の計画案について審議・議決を行います。以降、10月に実施される聖華祭（文化祭）での模擬店出店に向けて実行委員会で検討を行い、聖華祭当日、おにぎりなどの販売やお菓子のつかみ取りなどが生徒たちから好評を得ました。11月末には育友会研修会を開催し、会員間の交友を深めています。続いて、1月末実施の耐寒訓練における豚汁接待の準備が始まり、当日は長距離を踏破し帰校した生徒たちに、朝から実行委員全員で準備した豚汁や焼き餅をふるまっています。また、年度内に2回広報誌を発刊しています。

このように、生徒、保護者、学校が一体となって様々な取組を行っていますが、Withコロナ、Afterコロナの時代における活動の在り方については、現在模索が続いています。

ICT整備・管理委員会

平成29年4月

- ・ICT整備・管理委員会設置。
- ・校内の情報機器及びソフトウェア、本校ホームページ等の維持管理業務を担当。

平成30年8月～10月

- ・LL情報教室、校内サーバーの更新。従来のノートPCに加え、新規にWindowsタブレットPCを41台導入。
- ・本館全教室でのWi-Fi導入。（現在は体育館を除き全館Wi-Fi利用可能。）

令和2年4月

- ・コロナ禍による臨時休校、在宅学習への対応としてZoom、YouTube等を利用したオンライン授業を開始。それに伴いタブレットPC等機材の貸し出しを実施。
- ・G Suite for Education（現Google Workspace for Education）の導入並びに、全教員、生徒のアカウント取得と利用の推進。

令和2年12月

- ・共有端末として、Chromebookを40台導入。

令和3年11月

- ・前期課程生徒、個人所有でのChromebookを一斉購入。これに伴い既存の共有使用の機器と合わせ、全校での「1人1台端末所持」体制が達成。以後、入学時に全員Chromebookを購入。



LL情報教室



（左・中手前）Windowsタブレット
（右・中奥）Chromebook

国際交流推進委員会

◇英語集中プログラム、エンパワーメントプログラム

昨今、実用的な英語習得の重要性がますます高まっており、本校でも“コミュニケーションのツール（道具）”としての英語の強化を目的として、特別なプログラムを設けています。

例えば前期課程では英語の4技能を鍛えるためISA（海外留学やホームステイなど世界に飛躍したい学生等のサポート会社）とタイアップし、8月に校内においてネイティブの指導のもと、少人数グループで丸2日、又は1日英語にどっぷりと浸かる「英語集中プログラム」を行っています。後期課程ではその発展形としてハーバード大や京都大など国内外一流大学の留学生を招き、4日間彼らと英語でのディスカッションを通して、SDGsにあるような課題について共に考え、共に解決策を探り、意見をまとめてプレゼンするという「エンパワーメントプログラム」を行っています。英語のアウトプットだけでなく、世界的視野で物事を考える大切さを学びます。

これらのプログラムを経験した生徒からは「英語が好きになった」「英語が使えるとすごく楽しい」「もっと英語を勉強しなければ」との声が聞こえました。



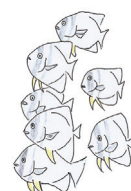
◇オーストラリア異文化交流研修

荒木校長の提案で、平成30年3月、オーストラリア異文化交流研修が開始されました。第1回目は1年生から5年生までの17名の生徒と2名の引率教員がISAのコーディネートのもと、オーストラリアのメルボルンからバスで約1時間の郊外にあるジーロンで2週間の研修を行いました。生徒は基本的に毎日現地校であるジーロンハイスクールに登校し、午前中は語学研修、午後は学校の授業に参加する形で、現地の高校生と交流をもちました。また、全員がホームステイして、オーストラリアの家庭生活を実際に体験。この滞在期間中にメルボルン観光、バララット自然公園、ソプリンヒル（ゴールドラッシュ時のオーストラリア、バララット地区を再現）などでオーストラリアの文化や歴史について学習をしました。



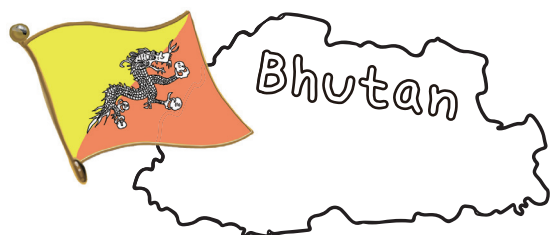
◇セブ島語学研修

希望者を対象に令和元年7月よりフィリピンのセブ島にあるHowdy English Academyで語学研修を開始。この研修は午前8:15より英語日誌の確認、8:30より1対1の対面レッスンを5時間、グループレッスンを2時間、授業終了時のアクティビティという構成で実施されました。空き時間に現地のショッピングモールに買い物に行くというアクティビティにも参加しました。その中で現地の人々と交流するなど語学研修以外にも多くの異文化理解を学ぶことができました。



◇ブータン・オンライン学習会

中等3年生が教科書で「幸せの国」と称されるブータン王国について学習の後、オンラインで現地の観光コーディネーターであるゲンボ・ドルジ氏と学習・交流会を実施。このオンライン交流会では、GNHトラベル&サービスのご協力をいただきました。



◇マレーシアとのオンライン交流会

令和4年9月より、本校16期生がことばの学び工房の紹介により、マレーシアのマーシング高校とオンライン交流を三度実施。11月にはマーシング高校を紹介していただいた、マレーシア工科大学教授のクマラグル先生が本校を訪問し、オンライン交流への聞き取り調査をされました。



平成30年3月	オーストラリア異文化交流研修 (Geelong High School)	令和4年9月～	マレーシア、マーシング高校と三度のオンライン交流会 (5年生)
平成31年3月	オーストラリア異文化交流研修 (Geelong High School)	令和4年11月	マレーシア工科大学よりクマラグル教授来校
令和元年7月	セブ島語学研修 (Howdy English Academy)		マレーシアオンライン交流会に対する中等5年生への聞き取り調査を実施。
令和2年1月	日本国内で初めての新型コロナウイルス感染症の感染者が確認される。	令和5年3月	オーストラリア異文化交流研修 再開 (Geelong High School)
	以降、令和4年までオーストラリア異文化交流研修、セブ島語学研修が中止となる。	令和5年7月	セブ島語学研修 (Howdy English Academy)
令和2年6年	ブータン・オンライン学習会		
令和4年7月	セブ島語学研修 再開 (Howdy English Academy)		

キャリア教育推進委員会

内容が重複しますので、P41を参照ください。